本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

「たすかり」を願い、誰かのためにおぢばへ――

第99回天理教青年会総会

10月25日、「第99回天理教青年会総会」が本部中庭にて開催された。

今回の総会に向けて天理教青年会では、一人でも多くの会員が、身上や事情を抱える人のたすかりを願っておぢばへ帰ることを呼びかけてきた。式典後は神殿でのお願いづとめと、第100母屋にて十二下りてをどりが勤められた。

今年は午後1時からの開会となった「第99回天理教青年会総会」には、本愛分会から20名の青年会員が参加した。

式典では礼拝、開会宣言の後、中山大亮青年会長が告辞に立たれた。

中山会長は冒頭、青年会活動の根幹に立ち返り、「布教、求道、伏せ込み」に邁進することを通して、「一人でも多くの道の若者が、同じ意識を持って共に活動し、心の成人をより一層進められる青年会として、あらきとうりようの真価を発揮したい」との決意を述べられた。また、この「布教、求道、伏せ込み」が青年会の原点であり、活動の根幹であるとして、「残り3カ月の年祭活動の中で、また第100回総会に向かって、あらきとうりようの真価を発揮し、お道の未来を切り開いていこう」と呼びかけ、話を締めくくられた。

続いて、中田善亮表統領が代読した真柱様メッセージでは、「若い年代は将来の成人を目指して基礎づくりをしていくときであることを忘れないで、教会長や道の先輩に育ててもらう気持ちを持ち、自ら育つ努力を怠らずに、仲間をつくり、仲間と共に活発に活動し、青年会活動に熱心に取り組むことを通して、教会、ひいては道の力となっていってもらいたい」と説かれた。

その後、青年会員が「あらきとうりよう指針」を唱和し、最後に『天理教青年会々歌』を斉唱した。

なお、青年会本部では本年の総会に向け、会員一人ひとりが人のたすかりを願って帰参をする手立てとして、「おたすけ願」を作成し、活用を呼びかけてきた。「おたすけ願」は当日、受付で回収され、式典後、中山会長を芯に東礼拝場でお願いづとめを勤めた。その後、第100母屋で十二下りのてをどりまなびが勤められ、本愛分会の青年会員も参加した。

12月のこよみ

入社祭
1日　午前10時

よふき会例会
2日　午前10時

月次祭
13日　午前10時

青年会例会
13日　午前10時

布教実修所
14日　午前10時

鼓笛隊練習日
14日　午前10時

むつみ会例会
16日　午前10時

こども食堂ＭＯＧＵ
17日　午後4時30分

婦人会例会
20日　午前10時

女子青年例会
21日　午前10時

本部月次祭
26日　午前9時

大祓式
31日　夕づとめ後

習字のＯＫＥＩＫＯ
華水教室
5週目を除く毎週木曜日

現代に生かす「用木の道」

文・安藤吉人

今回はラジオ風の配信に挑戦したいと思っています。より広く大勢の方に聴いていただくための新たな挑戦でもあります。

さて、今回は大正6年1月の『みちのとも』に掲載された「正直のこゝろ」という教祖のご逸話です。ここでは教祖は「嘘をつくこと」に対して大変厳しくお諌めになっています。

正直であること

逸話の概要は次ようなものです。教祖ご在世中はかぐらづとめを勤めることに対して政府の弾圧が厳しく、初代真柱の中山眞之亮様は常に苦心され、時にはおつとめを秘密裏につとめられることもありました。

あるとき、遠くから帰ってきた信者数名が中山家のお座敷でおつとめをつとめていたところ、巡査が来訪し、あわててかぐら面や鳴物を持って逃げ出したそうです。その場には眞之亮様だけが残り、巡査の対応にあたりますが、巡査から「禁制に背いて、又つとめをしているな」と脅すように咎めました。

眞之亮様は、「イエ、決して・・・御覧の通り、誰もおりませぬ」と答えますが、巡査は部屋の隅にあった鼓を指さし「偽りを申すな」

とさらに咎めます。

「あの鼓ですかあれは妹が稽古家から持って帰り、ポンポン鳴らしていましたが、置きっ放しにしたのです」と眞之亮様が答えたところ、巡査は返す言葉がなく、そのまま教祖のお居間に入っていきました。

教祖はお居間いつも通り目を瞑ってお座りになり、「今日は誰も来ていないのか」という巡査の問いかけに対し「五、六人の子供らが、今がたあちらでつとめをしておりました」とお答えになりました。

これを聞いた巡査は怒り、眞之亮様に「貴様、よくも俺を騙したな」と咎めます。このとき、教祖は眞之亮様に対しこのようにおっしゃったと、『みちのとも』には書かれています。

「人は正直でなければならぬ、正直でなければ人ではない。正直のもとは、嘘を言はぬにあると、あれほどねんごろに言ひ聞かせてゐるではないか、イヤ、言い聞かせたばかりじやない、私は是までお前等に、只の一度でも不正直な事して、見せたことがあるか、嘘を言ふて聞せた事があるか」。

教祖は普段の優しいご様子とは異なり「厳然たる口調」でそうおっしゃり、眞之亮様は深くお詫びして、自らを勾引するよう巡査に申し出たところ、教祖のお言葉と眞之亮様の様子に胸を打たれた巡査は説諭だけをして帰ったそうです。

眞之亮様の嘘は、教祖に御苦労をおかけしないようにとの思いでついたものです。しかし教祖は、それ以上に「正直であること」が大切だと教えられているのです。

人間の考えと神様の思召との間には大きな差があります。「教祖だったらなんとおっしゃるか」を常に考えながら通ることが大切です。

年末年始の行事

◆おぢば◆

別席　12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭　1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

お節会　1月5日より7日までの3日間、いずれも午前10時から午後1時まで。

◆大教会◆

餅つきひのきしん　28日　午前7時30分

年末清掃・迎春準備　29日　午前10時

大祓式　31日　夕づとめ後

立教189年

元旦祭　1日　午前5時

教会長年頭連絡会　13日　祭典後

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第131回】

報恩の真心を実行に現し、おぢばへ誠真実を運ぶ旬

初代会長様は『みかぐらうた講話』の中で次のように述べておられます。

「人間はとかく感謝の念は日々薄くなり、恩にきせる心は一日増しに増加して、恩に慣れてしまうのである。小さな恩は知っていても、最大の恩は忘れがちである」。

報恩の信仰一筋に歩み抜かれた初代会長様の、実に深くて重いお言葉です。

道の先人は親神様への報恩感謝の心を金品に託して、教会へ、またおぢばへと運ばれ、命懸け真剣の心からなる「つくし・はこびの道」を実践されました。

こうした誠真実を、昔も今も親神様はまるごと受け取ってくださいます。けれどもそれは、捧げる金品の多寡や質を受け取られるのではありません。そうではなく、形に添えられた心がいかなるものかを見定めて受け取り、銘々の魂に返してくださるのですから、ただ物やお金や時間を捧げればよいと考えてはならないのです。そこで拠り所となるのが次のお言葉です。

よくがあるならやめてくれ　かみのうけとりでけんから

（九下り目４）

八つのほこりの中でも戒められているように、欲の心があると、いくら形は尽くしても親神様はその心を受け取ることはできないと仰せられます。しかしながら、人間の心の中から欲望を消し去ることはできません。ではどうすればよいのか。ここが難しいところですが、おつくしをする時には、やはり欲の心をできるだけ少なくし、自分の願いを後回しにして、親神様のご恩に報いる心と、人だすけの祈りを前面に出すようにする心の訓練が大切なのではないでしょうか。欲を無くすことはできなくても、心一つで慎むことはできますから、思召に適うような慎みの心を捧げていきたいものです。

また、おふでさきにはこのようにも仰せになっています。

しんちつが神の心にかなハねば　いかほど心つくしたるとも

（十二―134）

金品にしろ時間にしろ、心を形に表して尽くす時には、我が心を真底から澄み切らせ、嘘や偽りのない真実を尽くすことが重要であると教えられたお言葉です。

ここで示される「真実」を大別すると、

①自身のお詫びとさんげ
②喜びとたんのう
③親孝心
④人だすけの祈り

の四つに分けられると思います。①は、自分の周囲で思うようにならないことが起きた時に、原因を他者に求めるのではなく、自分の魂についた埃だと悟ってお詫びとさんげをする。これが誠真実といわれる心使いの一番の基本です。

そして次に肝心なことが②で、成ってきた事柄の中に喜びを見出す「たんのう」の精神です。この心が天に届くのですから、どんな中でも喜びを見出す努力を怠ってはなりません。

さらに心の成人が進むと、親神様と教祖に喜んでいただくにはどうすればよいかという③親孝心の心で考えられるようになり、その答えとして④人のたすけを祈らずにはいられなくなる。これが真の「おつくし」として天に届くのであります。

初代会長様は、ご恩を感じたらすぐに形に表してお返しをする実行が重要だとお諭しになりました。教祖年祭を目前に控えた今、報恩感謝の「つくし・はこびの道」を、精一杯に進んでいこうではありませんか。

＊

「教理随想」は今号を持って連載を終了いたします。長い間、ご愛読くださりありがとうございました。

【安藤】

10月のおさづけの理拝戴者

永田有彩（本心・本心徳）
犬飼楓（本山王）

10月の初席者

河野眞理（直轄）
中山侑也（本桑名）
柏友貴（本愛濃）
柏奈那（本愛濃）
卓英志（本愛慶心）
葉繼忠（本愛慶心）
池秀香（本愛慶心）
伍美英（本愛慶心）
伍愛英（本愛慶心）
呂秀玉（本愛慶心）
王美麗（本愛慶心）
李麗珠珠珠（本愛慶心）

本滋賀分教会初代会長夫人細川さと之霊の三十年祭

本滋賀分教会では10月19日午前11時より、初代会長夫人・細川さと之霊の三十年祭が大教会長を祭主として同分教会で厳かに行われた。

本清明分教会二代会長中島わぐり之霊の五十年祭

本清明分教会三代会長中島功男之霊の十年祭

本清明分教会では11月16日午前11時より、二代会長・中島わぐり之霊の五十年祭並びに、三代会長・中島功男之霊の十年祭が大教会前会長を祭主として同分教会で厳かに行われた。

お出直し

山神理恵子氏（本愛守分教会三代会長夫人）

11月7日に出直された。享年68歳。告別式は11月11日正午より、世話人・都築隆道役員を斎主として執り行われた。

お詫びと訂正

11月号の2頁掲載の「秋季大祭役割」において、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

前半　すりがね（誤）塚原光男
　　↓（正）佐藤正二
後半　地方（誤）杉下和平
　　↓（正）桑子彰
後半　琴（誤）上野容子
　　↓（正）伊藤純代

祭事部

大教会日誌

令和７年10月25日～令和７年11月24日

10月

25日　第99回天理教青年会総会（於・本部中庭）

26日　本部秋季大祭

31日　常任役員会議、役員会議

11月

1日　入社祭

祭主 大教会長　扈者 青木健裕、吉田克義

指図方 杉村善男　賛者 中島裕信、山本治行

◇祭典講話―相原知宏

2日　よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

12日　常任役員会議

13日　月次祭

祭主 大教会長　扈者 都築隆道、板山眞一

指図方 田中新一　賛者 安井篤、山本治行

◇祭典講話―種田孝男

青年会例会

14日　布教実修所

16日　むつみ会例会

17日　こども食堂ＭＯＧＵ

20日　婦人会例会

23日　うちわけ会おぢばがえり

24日　女子青年例会